

# ご近所の お医者さん

640

第一東和会病院理事長

大西恭子さん

—高槻市

## くも膜下出血は予防できるの？

くも膜下出血とは、主に血管のごぶ(脳動脈瘤)が破裂することによって起きる出血です。脳卒中とは脳梗塞や脳出血など、脳の血管が引き金になって発症する病気の総称ですが、このうち、くも膜下出血は約10%を占めています。

代表的な症状は突然の激しい頭痛で、意識障害や嘔吐なども比較的多くみられます。働き盛りの年齢から中高年に多く発症し、死亡する確率が30%以上と高い病気です。経験した

## 脳の状態検査で確認を

ことがない強烈な頭痛があった場合は、すぐに救急車を呼んで受診しましょう。

脳動脈瘤が破裂し、くも膜下出血を発症した場合には、破れた動脈瘤が再び破裂しないよう外科的な治療が必要

襲手術とも呼ばれ、体への負担も軽くなりました。

くも膜下出血を予防する対策は、血圧の管理、禁煙、脳ドックを受けることです。脳ドックは脳卒中や認知症を予防するための検査です。脳ドックのMRI(磁気共鳴画像化装置)検査で脳動脈瘤が見つければ、血圧のコントロールをします。状況によっては、脳動脈瘤が破れないよう治療してくも膜下出血の発症を防ぎます。血圧ですが、上は130、下は80mmHgまでに抑えておくことが大切です。

です。治療は一般的に二通りあり、一つは開頭手術で動脈瘤の根元にクリップをかけて再破裂を防ぎます。もう一つは、動脈瘤の中にコイルを詰めて血液の流れを止めるカテーテル治療です。カテーテル治療は近年急速に発展している治療法です。

太ももの付け根から管を入れるので傷口が目立ちにくく、手術で頭を開けることなく治療ができることから低侵

高血圧、喫煙のほかに、脳卒中の危険因子である糖尿病、脂質代謝異常、肥満の方、あるいは多量飲酒、家族に脳卒中を発症した方がおられる場合は、ぜひ検査で脳の状態を調べていただき、健康を管理しましょう。

